

今日のキーワード 7月の猛暑と株高により好調だった『小売動向』

『小売動向』を把握するには「商業動態統計」や、百貨店、スーパーなどの小売業界が発表する売上高等の販売統計が参考となります。8月は記録的な長雨が続くなど夏らしくない天候となっていますが、7月は猛暑により夏物商材を中心に『小売動向』は好調でした。今回は、身近な『小売動向』を通じて、今夏前半の消費動向を振り返ります。

ポイント1

7月は猛暑の影響で『小売動向』は好調

エアコンなどの家電や、飲料・アイスクリームなどの夏物商材が好調

- 8月30日に発表された「商業動態統計速報」によると、7月の小売業販売額は前年同月比 + 1.9%の12兆2,310億円と増加しました。7月は九州北部豪雨が発生するなど、日本海側では局地的に大雨となりましたが、北・西日本を中心に月平均気温が高くなりました。こうした猛暑の影響から、『小売動向』は夏物商材を中心に好調となりました。具体的には、エアコンや扇風機といった家電のほか、飲料やアイスクリームなどの売れ行きが良好でした。また、帽子や日傘などのUV対策アイテムも猛暑が販売の後押しとなったようです。

ポイント2

インバウンド消費も好調さを維持

人気は化粧品や医薬品、菓子などにシフト

- 業態別にみると、百貨店では国内市場の減少が続くなか、引き続き外国人観光客による消費（インバウンド消費）が好調で、7月は売上、客数がともに過去最高となりました。
- インバウンド消費は、家電や高級ブランド品などの爆買いから、化粧品や医薬品、菓子などの食品に変化してきています。百貨店でも、主力の衣料品が苦戦する一方、化粧品は商品別売上高で最も好調でした。こうした新たなインバウンド消費の動きは、ドラッグストアや家電量販店など幅広い業種に及んでいます。
- この他、7月は株高となったことから、百貨店では富裕層による高級輸入時計や宝飾品などの高額消費も活況でした。



今後の展開

8月は真夏らしからぬ天候、秋以降の天候回復に期待

- 7月の『小売動向』は、インバウンド消費の好調さに加え、猛暑と株高が消費を促しました。一方、8月は記録的な長雨や真夏らしからぬ天候が続いたことや、朝鮮半島の地政学リスクや米国での政治リスクへの懸念により株価が下落していることなどから、消費意欲は抑制されそうです。ただし、経済統計によると日本の労働市場は引き続き好調であり、消費マインドの冷え込みは長続きしないと見られます。秋に入り天候が良くなれば、消費動向も回復が期待されます。

ここもチェック!

2017年8月28日 『出遅れ業種』の株価修正はあるか？（日本）
2017年8月25日 『健康寿命』と「平均寿命」の重要な差

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。